

ごあいさつ

松前町長 白石 勝也



松前町の皆様、明けましておめでとうございます。よい初夢をみられましたか。

私が町長に就任しまして二年余り、一期目の折り返し点を過ぎました。この間私は、皆様にお約束したとおり、「見える、分かる、クリーン」な政治姿勢を基本に町政を推進してまいりました。おかげさまで、皆様のあたたかいご支援やご理解をいただいて行政の透明度も上がってまいりました。そして、情報公開条例も新年1月1日から施行し、これからもできるだけ分かりやすく行政の内容を皆様にお知らせするとともに、皆様からも意見をお聞きし、行政と議会と住民が一体となったまちづくりを進めてまいりたいと思います。

昨年の新年のあいさつで私は、21世紀は心の時代であり、「自分だけ良ければよい」という考え方を捨て、他人を思いやる気持ちを持つことが大事だと申し上げました。

しかし、残念ながら、21世紀幕開けの昨年も、私たちのこの願いとは大きく異なり、自己中心的な、自分勝手な考えで、平気で子どもを誘拐したり、殺害したりする事件が後を断ちませんでした。とりわけニューヨークで発生した同時多発テロ事件は、断じて許すことのできない行為だと思います。そして、これに対する報復として、アメリカ軍のアフガニスタンへの空爆や脱出する難民の方の映像がテレビに映し出されるたびに、私は、戦争の世紀に逆戻りしてはいけないという気持ちを強く持ちました。

さて皆様、今年は市町村合併の問題について様々な角度から、検討し、意見を交換していきたいと思えます。

私は、昨年10月に町村会の行政視察で岩手県の北上市を訪れました。北上市は10年前に、一市一町一村が合併してできた市です。市政はたいへん順調で合併の効果が随所に出ているということです。市の合併担当職員は合併実現の要因として、『議会の提言』・『新設(対等)合併』・『住民の盛り上がりによる自主的な合併』・『前向きな議論』の4点を挙げて説明してくれました。私もなるほどとうなずくとともに、それでは合併を議論するうえで、一番大事なことは何でしょうか、と質問しました。それに対し、担当者は、「互譲」と「融和」です、と明快に答えてくれました。

私も全くそのとおりだと思います。合併を議論する時に、初めから私利私欲や既得権、更には、目先のことだけにとらわれた物の見方で主張をぶつけ合うのでは、建設的な話し合いになりません。私たちが住む町がこれからどんな町であればよいのかを、21世紀に私たちに求められている思いやりや譲り合いの気持ちをもつて一緒に考えてまいりましょう。

このほか、今年はお朽化した給食センターを大溝の小富士保育所の隣に新築移転します。さらにその隣に神崎にある伊予郡の養護老人ホーム「和楽園」も移転させる準備にとりかかります。

また、昨年10月に走り始めた福祉バスは、できるだけ多くの高齢者や障害者の皆さんに利用していただけるような方策を考えてまいります。

そして、松前町の皆様もよくご存知の伊予市大谷池の堤防にある桜を神崎の福德泉公園に移植して、この春は、皆様と一緒にお花見をしたいと思っています。

どうか、今年も幸せな出会いがたくさんありますように。



謹んで

新年のお慶びを
申し上げます

助役

石川 晋吾

収入役

仙波 勲

教育長

赤星 皓一